



地域交流活動かわら版



asobi 基地サークル@杏林 初イベント実施!

2019年1月26日(土)杏林大学井の頭キャンパスにて asobi 基地サークルが、地域の子どもとその家族を大学に招き「遊び場提供イベント」を行いました。

代表 総合政策学部総合政策学科4年 田嶋克侑くんからのコメント



「私たちの団体は今年度できた新しい団体です。その為大学としてもイベントを実施することは初の試みとなります。asobi 基地学生部@杏林大学は『大人も子どもも自由に、みんな一人の人間として平等である』『完璧な大人や子どもはいない』というコンセプトの下に活動しております。所属メンバーは『将来先生になりたいと考えている学生』『子供と遊ぶ事が大好き』『大学時代に何かをやりたい』といった学生が参加しています。地域、大学でイベントを実施し大人や子どもも関係なく、参加者が多くの人と出会いお互いを認め合えるコミュニティを実現できればと考えております。」

観光交流文化学科「プロジェクト演習Ⅱ」へ潜入捜査!

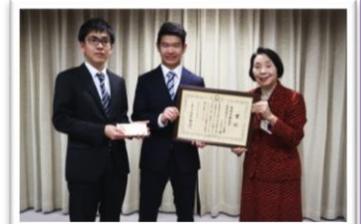
『プロジェクト演習Ⅱ』とは?

観光交流文化学科2年生科目である『プロジェクト演習Ⅱ』は、地域における問題を発見し、その問題を解決する策を検討する授業で、CCRC 構想を踏まえつつ、本学と連携している市町村の「にぎわい創出」をテーマに行います。この科目は講義だけでなく、個人演習およびグループワークの組み合わせで展開され、能動的な姿勢で参加することが必須となることから、積極性のある学生が履修しています。

今回は、今年度の履修生である外国語学部観光交流文化学科の甲谷友華梨さんと熊谷知華さんに、現在取り組んでいる活動内容とその感想を伺いました。2人が設定したテーマは「20代の若者は、なぜ八王子市から転出するのか。」このテーマに対して2名共同で調査を行いました。**甲谷さんからは「インタビュー形式で八王子市役所職員の方々に調査を実施しました。初めての経験だったので苦戦した部分もありましたが、非常に達成感を味わうことが出来ました。八王子市は、自然環境が良く利便性があり産業資産が豊富なので、ビジネスチャンスがあると感じました。職員の方々は私たち学生のインタビューにも親身に回答してくれ、学園都市を活かして産学連携に力を入れている点も魅力を感じました。」**とのコメントが寄せられました。**担当教員の井手先生からは「『プロジェクト演習Ⅱ』は、春学期のプロジェクト演習Ⅰで学習したことを実践に移す科目です。実際に調査を実施し、その結果に基づいて問題解決策を検討した後、最終的にレポートを完成させ、調査でお世話になった自治体の方々に学生さんが自分たちでレポートを送付します。地域に貢献する(他者貢献)、知識を吸収して活用する(学びの充実)、それらを通じて学生さんが自己を磨く(自己成長)ことに繋げて欲しいです。」**とのコメントが寄せられました。

「ボランティア団体 feel」三鷹市から環境活動表彰!

三鷹市では、優れた環境を創出するために先導的な活動を行っている市民や団体、事業者などを選出し、毎年表彰しています。今年度は、最も優れた活動と評価された「環境活動表彰」に、井の頭キャンパスの学生で構成されているサークル「ボランティア団体 feel」が選ばれ、2月19日(火)、三鷹市役所で表彰式が行われました。表彰式でははじめに、団体代表の保健学部理学療法学科1年の間川真幸さんと高橋拓己さんに清原慶子市長から表彰状が手渡され、「始められた活動を継続していただき、高環境で幸福な三鷹市作りを一緒に進めていただきたいと思います」と挨拶がありました。代表の間川さんは、清原市長との懇談の中で「今年度から三鷹市の公園ボランティアに登録し、キャンパス周辺の清掃活動などにもっと力をいれていくことになりました。この活動を今後も後輩に受け継ぎ、続けていきたいと思っています」と今後の抱負を語りました。



☆第7回杏林 CCRC フォーラム☆

2019年2月23日(土)杏林大学井の頭キャンパスにおいて、「杏林 CCRC フォーラム公開講演会」と「第7回杏林 CCRC フォーラム」を実施しました。杏林 CCRC フォーラムには、羽村市より並木市長、三鷹市より清原市長にもお越しいただき、ご挨拶を頂戴しました。

★第1部：公開講演会★

立正佼成会附属佼成病院の緩和ケア科・病棟医長の北村浩先生にお話しをしていただきました。医療用麻薬（モルヒネ）、世間一般では「中毒」「麻薬」という言葉を連想する方も多い中、痛みを緩和して普段と同じ生活ができるようになることを重視しています。現代のがん医療についての知識面、課題面で参考になる事が多かったと好評でした。

後半は杏林大学医学部内科学腫瘍科 教授の長島文夫先生に高齢者社会と癌、CCRC 研究所の取り組みについてお話していただきました。高齢者でも治療をしながら米国旅行をした方の例をもとに、高齢社会が抱える様々な課題の解決や研究の発表も凄く好評でした。

★第2部：第7回杏林 CCRC フォーラム★

平成30年度における様々な地域を舞台とした研究・貢献活動の報告を行いました。また、今年度は同じ三鷹市内にある大学の国際基督教大学とルーテル学院大学から教職員・学生をお招きし、各大学で行っている地域貢献事業に関して発表と意見交換を行うなど、文字通り「大学と地域をつなぐ」機会を持ち、杏林大学と連携する羽村市、八王子市、三鷹市の関係者の他、一般の方を含む84名の参加者が集まりました。

★研究発表



★ポスターセッション



【研究発表】杏林 CCRC 研究所の指定研究3件、地域志向研究の中から2件の報告が、研究代表教員より発表されました。総合政策学部の三浦秀之先生からはアメリカのポートランド州立大学と共に行った「Learn From Each Other Program」について発表され、宮城県石巻市と三鷹市を舞台に行った防災を学ぶフィールドトリップについて説明されました。このプログラムでは、三鷹市の協力のもと、ポートランドの学生たちが市立第一小学校の防災倉庫を見学する等、本学が地域活動の軸として貢献する「災害に備えるまちづくり」をじかに体験する良い学びの機会となりました。

【ポスターセッション】地域志向教育の実践活動報告として、本学より20件、国際基督教大学より3件、ルーテル学院大学より5件の発表が行われました。会場には、ポスターを読む多くの参加者であふれ、ポスター作成者である教員や学生と熱心に意見交換が行われました。**【パネルディスカッション】**杏林大学、国際基督教大学、ルーテル学院大学の教員の他、三鷹市企画部企画経営課職員、三鷹ネットワーク大学常務理事をパネリストに迎え、『地域活動の大学間連携の可能性』をテーマにディスカッションを実施しました。市内3大学と三鷹市が一堂に会するのは初めてということもあり、互いに活動内容を発表しあうだけでなく、協働できる部分はあるのかといった面でも意見交換を行い、自治体を中心とした大学間連携の強化を視野に、様々な可能性について活発な話し合いが行われました。

★パネルディスカッション



【地域交流推進室室長・古本先生より総評】本学における『地の拠点整備事業』は2017年度で終了しましたが、地域交流活動は今後も積極的に取り組んでいきます。そのキックオフとすべく、今年度のフォーラムでは新たな取り組みをスタートさせました。まず、午前・午後の2部構成とし、午前中には杏林 CCRC 研究所の取組を講演会形式で公開し、午後を本学が取り組んでいる地域交流活動の成果を御覧いただく場としました。また、三鷹市内の大学である国際基督教大学、ルーテル学院大学にも活動紹介にご参加いただき、大学間での情報共有の機会としました。このフォーラムを契機に、大学間で連携した新たな地域交流活動が生まれてくることを期待しています。